

研究構想シート		学校名	松江市立湖南中学校
		氏名	安部 寿美
A 研究主題		自ら挑戦し、協働する生徒の育成 挑戦したくなる学習課題の設定と協働する学びの工夫 (本校研究主題を兼ねる)	
B 研究の目的		教員の授業改善	
C 子どもの実態 (R4 湖南中SWOT分析より) 【強み】 ①人とのかかわりを好む ②周囲に対しても寛容的である。 ③協働して課題に取り組める。 ④自分の役割を果たそうと努める。 【弱み】 ①独創性や積極性に欠けるところがある。 ②粘り強く取り組むことが苦手。 ③コロナ禍の活動制限により、他者とのつながりや意識が薄くなっている。 (R5島根県学力調査分析より) △家庭学習時間が少ない。 △各教科の復習をする生徒の割合が全国平均より下回っている。 △基本的な知識技能は身につけているが、発展的な問題に苦手を感じる。 ○話し合い活動から、自身の考えを広めたり深めることができる。 (R5全国学力調査分析より) ○他の学習に関連付けようとする意欲がある。 △自主的に学習計画を立てるのが難しい。	E 手立て・内容(研究仮説)	D めざす子どもの姿 ・学力向上(小テスト、定期テスト、学力調査などの数値から) ・学習意欲向上(学校評価アンケートや学力調査などの数値から) ・自主的に計画を立てられる。 ・家庭学習習慣の確立 ・協働学習姿勢の継続 ・教科横断的な学びに気づく。	
	F 検証方法		生徒の学力向上のためには、めあてとふりかえりを意識した授業や、生徒自ら学びたいと思えるような授業を目指すなどの、教員の授業改善が必要なのではないか。
	G 研究計画		R6.4.4に行った教職員アンケートより、学力向上のための授業改善のキーワードとして①表現力②課題設定③協働学習④UDL⑤ICT活用を設定した。 【1】全教員にGoogle Formで5つのキーワードで「自分が伸ばしたい力」を選んでもらい、グループ化する。 【2】各グループでリーダーを決定し、現状の把握と研究の取り組み方法について計画する。(調査、実施)※取り組み方法の中で、生徒の変容を可視化できるようなアンケートなどを推奨する。 【3】各自で適宜グループ会の実施。 【4】2学期に、中間発表会と他グループとの情報交換会をし、活動修正 【5】3学期に、一年間取り組んだことによる自身の変化と生徒の学力に変化があったかを分析する。
		1学期	4/15(月) 研究部から研究構想について紹介 5/20(月) R6校内研究テーマ発表、アンケート
		2学期	6/17(月) グループごとの活動 (リーダー決定、目標設定、取り組み方法思案) 各グループで研究取組
		3学期	10/21(月) グループごとの中間発表と活動修正 R7 1/20(月) グループごとの最終発表 (来年度の研究テーマ思案を兼ねる)